

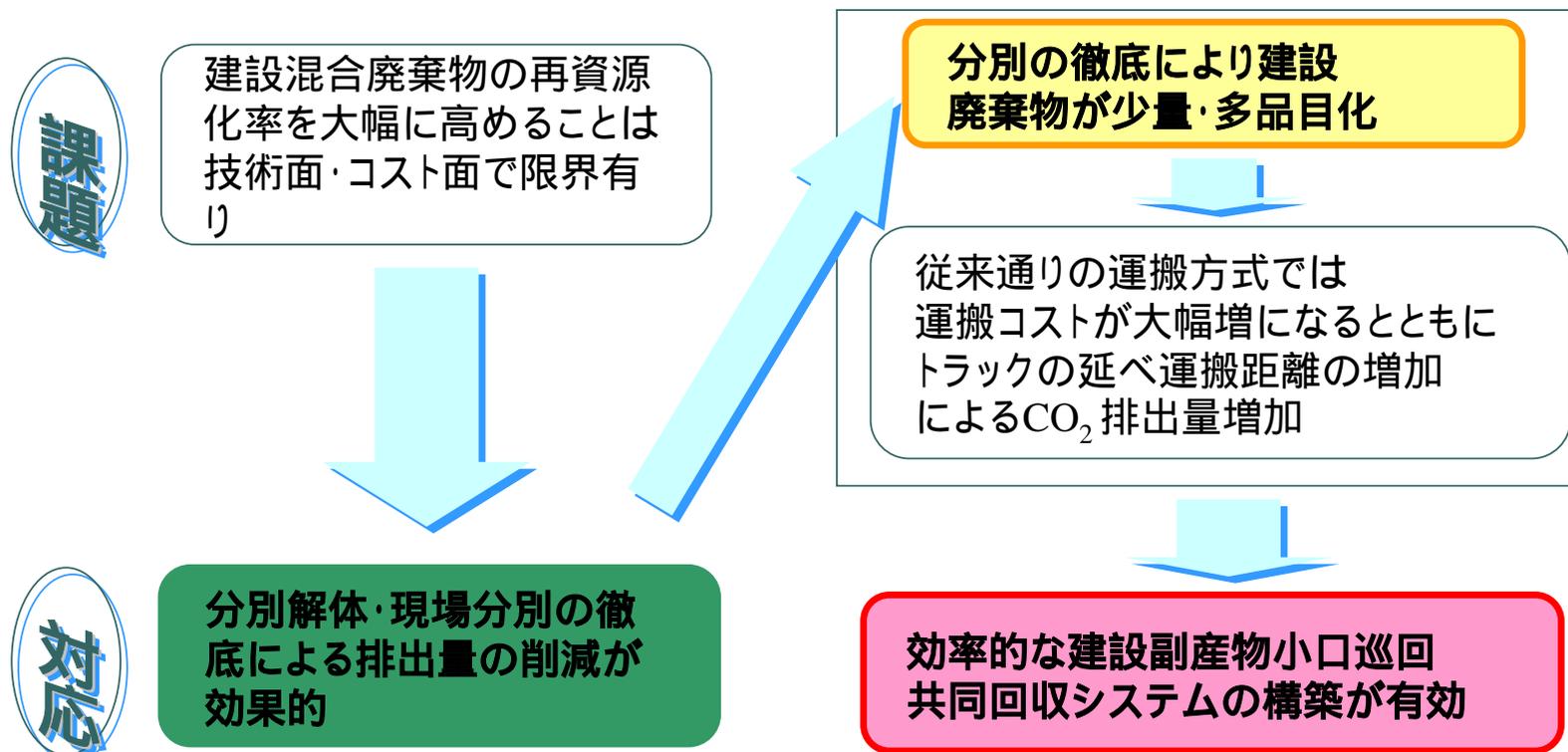
平成18年度の協議会、分科会の検討の流れ



1. 現在の建設混合廃棄物の課題と対応
2. 小口巡回共同回収システムのイメージ
3. 小口巡回共同回収システムを導入した時の課題(現状の課題を含む)
4. 小口巡回共同回収システムを実現するために想定される課題
5. H18年度の各分科会での検討事項
6. 各分科会の開催状況
7. 各分科会の検討の流れ

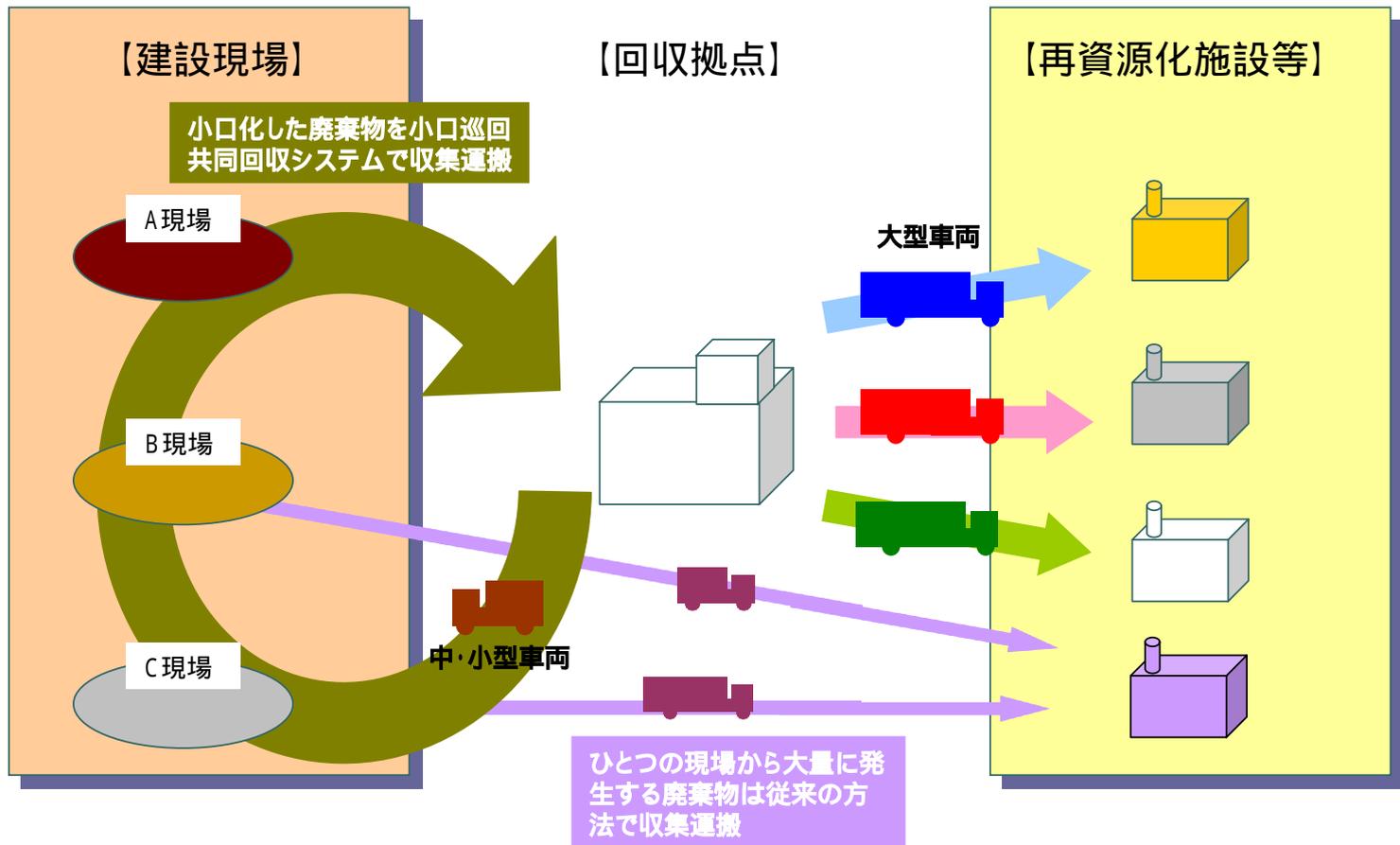
1. 現在の建設混合廃棄物の課題と対応

建設混合廃棄物のリサイクル率を向上させるための課題と対応は次の通りである。



2. 小口巡回共同回収システムのイメージ

本協議会で検討する小口巡回共同回収システムのイメージは次の通りである。



3. 小口巡回共同回収システムを導入した場合の課題(現状の課題を含む)

「現場」においては

- (1) 廃棄物の保管場所が確保できない場合など、再資源化可能な廃棄物も混合廃棄物として排出されている
- (2) 廃棄物の適正処理の確認の事務量の負担が大きい
- (3) 廃棄物の分別の基準が現場毎にバラバラである
- (4) 様々な車両の入退場により現場管理が煩雑となっている

「再資源化施設等」においては

- (5) 再資源化可能な廃棄物が最終処分等されている。
- (6) 廃棄物の再資源化のために十分な質及び量が確保できない

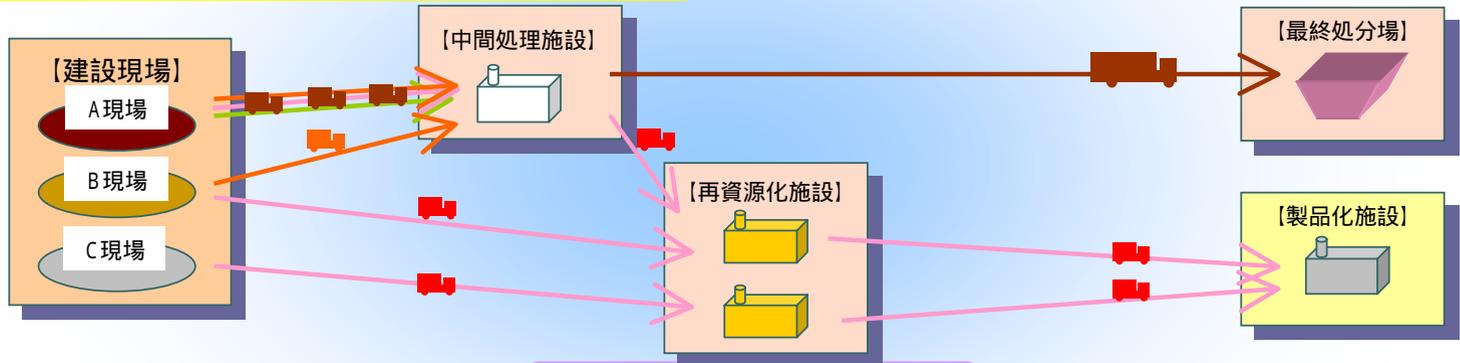


図 「現状の収集運搬」のイメージ

「収集運搬」においては

- (7) 現場から再資源化施設等へ小口少量の廃棄物を直接運搬する場合効率が低い
- (8) 現場付近に積替保管施設等がない場合には、郊外の再資源化施設等へ効率の低い小型車で運搬する必要がある
- (9) 限られた現場を対象に効率的な収集運搬計画の作成や運行管理を実施することは難しい

「その他」には

- (10) 建設副産物の運搬以外も含め、都市部の物流が環境負荷及び、交通渋滞の要因のひとつとなっている。

注)本資料では、「中間処理施設」とは搬入した廃棄物の大部分を焼却施設や最終処分場に搬出する施設、「再資源化施設」は搬入した廃棄物の大部分を製品の原料等として出荷する施設、「製品化施設」は搬入した廃棄物等を原料に製品を製造し出荷する施設をイメージしている。

4. 小口巡回共同回収システムを実現するために想定される課題

小口巡回共同回収システムを実現するために想定される主な課題としては、以下の課題が考えられる。

◆ルートや回収形態など運行形態の検討

◆システムの法制度上の課題の整理

◆メリット・デメリットやコストに関する検討

◆回収拠点に求められる機能の整理や整備・運営方針の検討

◆求められる情報処理機能の整理や情報システムの検討

◆情報システムの整備・運営

◆建設現場における分別基準の作成

5. H18年度の各分科会での検討事項

各分科会の本年度の検討内容は次の通りである。

【A分科会】

運行形態の検討
運行管理方法の検討

【B分科会】

小口巡回共同回収システムに必要な情報処理機能の整理

協議会で検討対象とする情報処理機能の検証

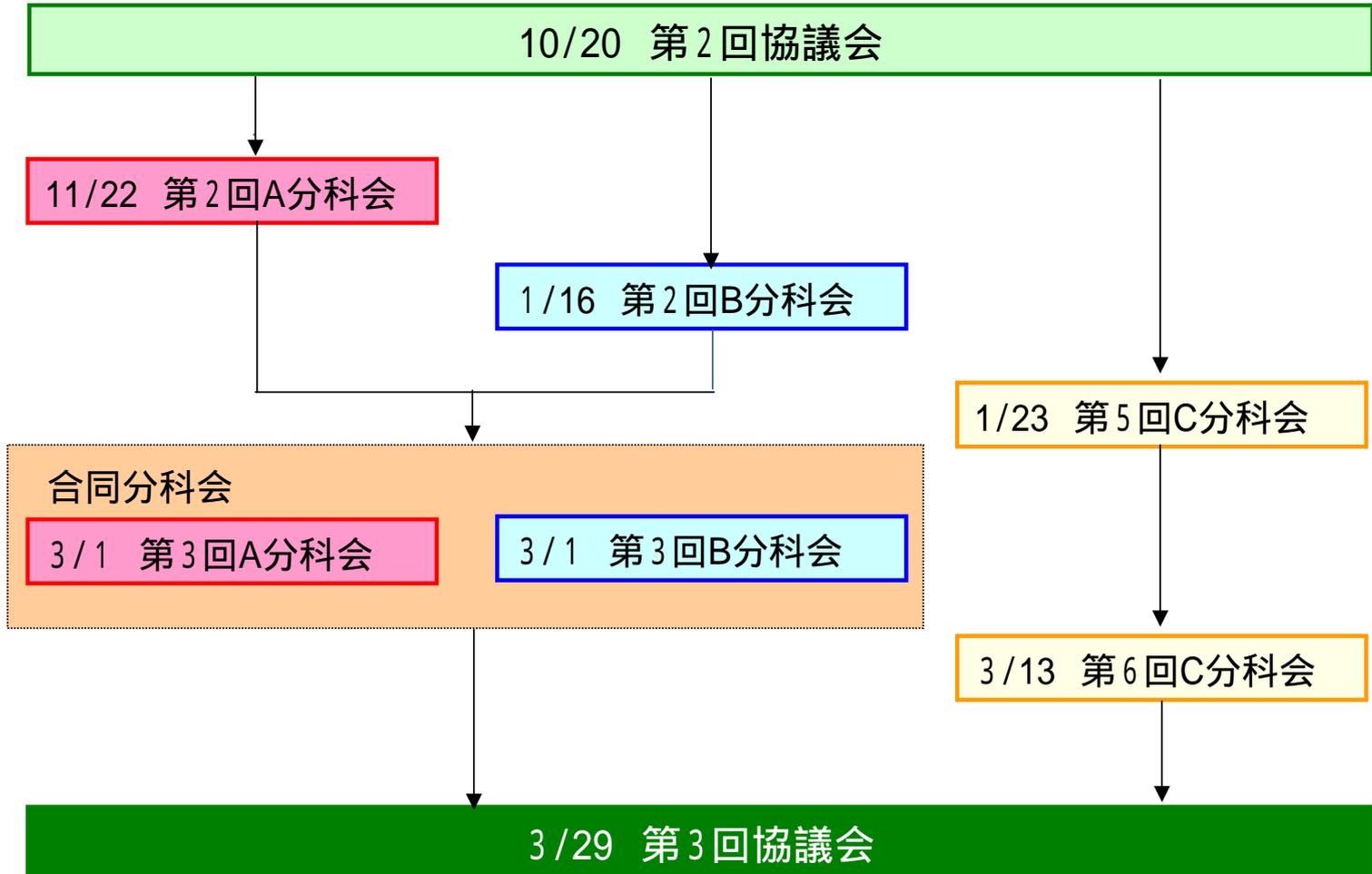
【C分科会】

建設現場における分別基準の作成の考え方の整理

建設現場における分別基準(素案)の作成

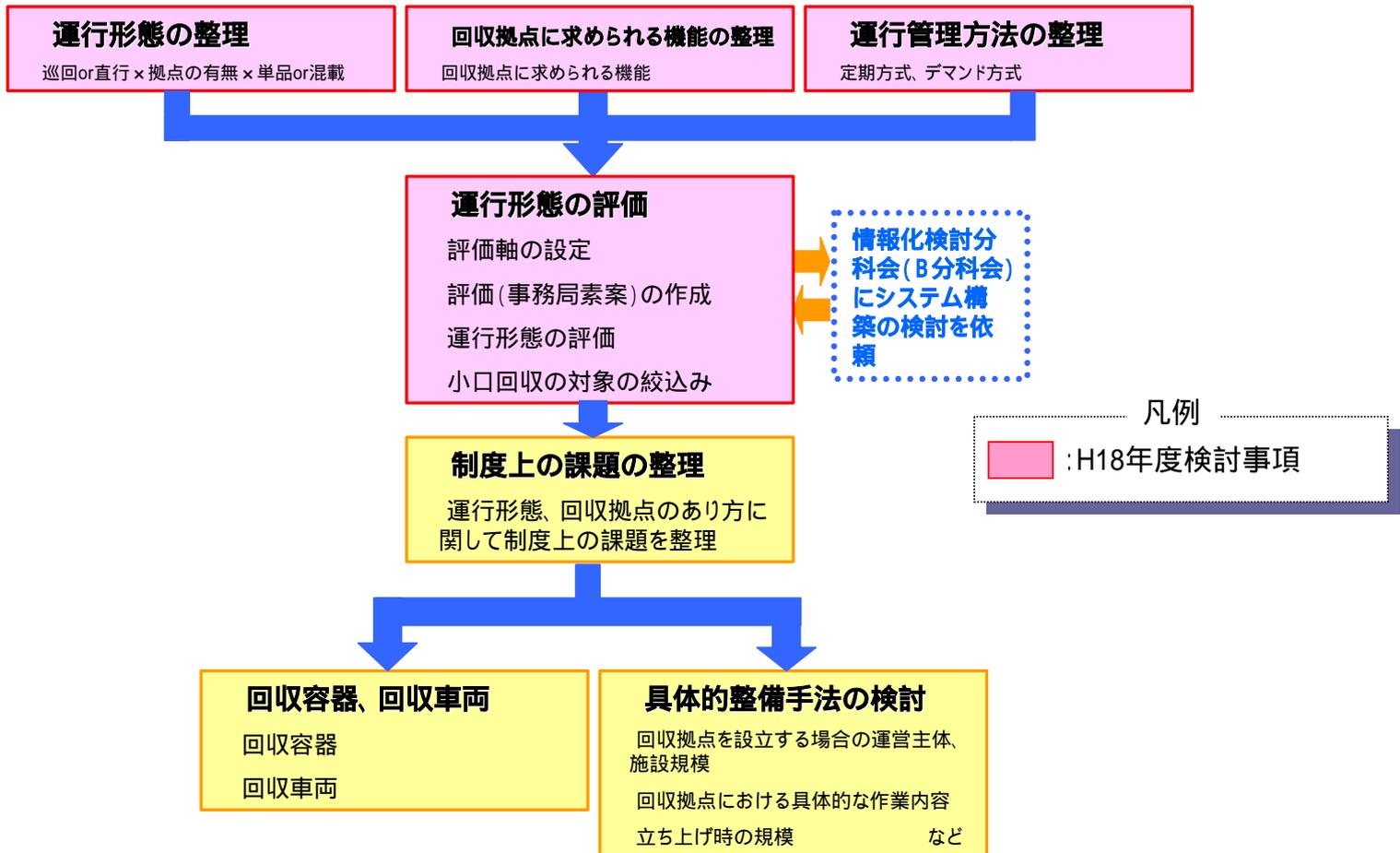


6. 各分科会の開催状況



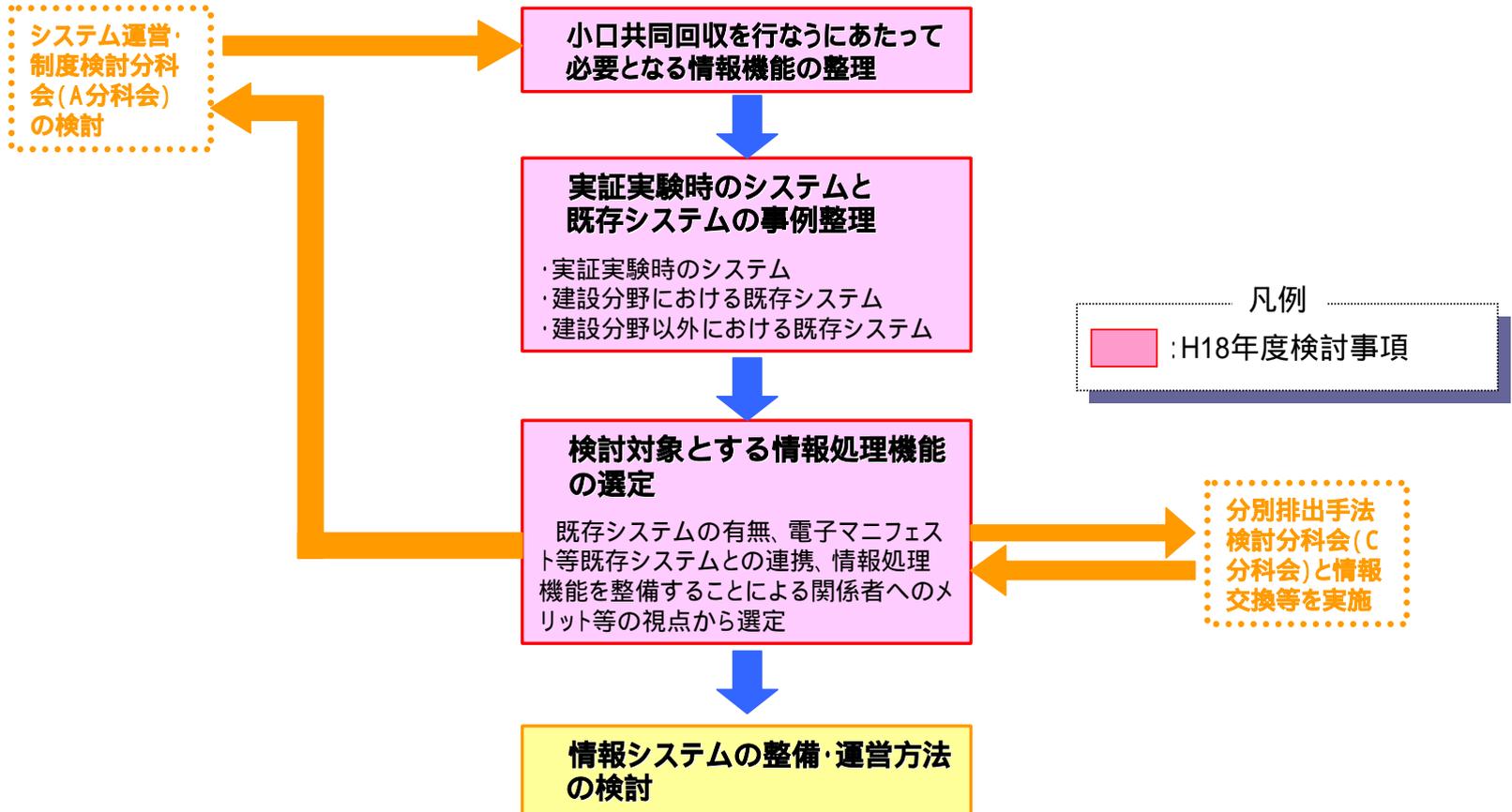
7. 各分科会の検討の流れ

(1) システム運営・制度検討分科会 (A分科会) の検討の流れ



7. 各分科会の検討の流れ

(2) 情報化検討分科会 (B分科会) の検討の流れ



(3) 分別排出手法検討分科会(C分科会)の検討の流れ

